



日本湿地学会第8回大会報告

1. 学術報告会及び特別シンポジウム

2016年8月27日(土)、島根大学にて日本湿地学会第8回大会が開催された。学術報告会は口頭発表とポスター発表あわせて25題の報告があり、51名の参加があった。8月28日(日)、29日(月)には日本湿地学会、日本国際湿地保全連合、ラムサールセンター、環境省、鳥取県、島根県、中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海水鳥国際交流基金財団、ホシザキグリーン財団の主催による「ラムサールシンポジウム2016－中海・宍道湖－」が鳥取県米子市・全日空ホテルで開催された。27日午後の宍道湖自然館ゴビウス及び宍道湖グリーンパークへのエクスカージョン、28日午前中の「中海・宍道湖セッション」は、第8回大会とラムサールシンポジウム2016のジョイントで開催された。

●第7回大会プログラム

○一般講演

1. 「少しは安くできるかも？湿原におけるタンチョウモニタリングに向けた UAV 活用の試行」
上原裕世・橋本寛治・吉田遼人(酪農学園大学)、吉野智生・松本文雄(釧路市動物園)、吉田剛司(酪農学園大学)
2. 「少しは解明できたかも？根釧地域の湿地に生息するエゾシカの季節移動」
吉田剛司・上原裕世・日野貴文・吉田遼人・佐藤瑞奈・佐藤温貴・五十嵐守(酪農学園大学)、村井拓成・赤松里香(EnVision 環境保全事務所)、立木靖之(サバ大学)、島村崇志・長雄一・上野真由美・稲富佳洋・宇野裕之(道総研環境科学研究センター)、小林聡史(釧路公立大学)
3. 「釧路湿原国立公園におけるニホンジカの冬期の生息地選択に及ぼす積雪の影響」
稲富佳洋・宇野裕之・長雄一・上野真由美・島村崇志(道総研環境科学研究センター)、日野貴文・吉田剛司(酪農学園大学)、村井拓成(EnVision 環境保全事務所)、立木靖之(サバ大学)、赤松里香(EnVision 環境保全事務所)
4. 「釧路湿原保全とエゾシカ管理におけるステークホルダーの役割」
小林聡史(釧路公立大学)、吉田剛司・日野貴文・上原裕世(酪農学園大学)、宇野裕之・稲富佳洋・長雄一・上野真由美(道総研環境科学研究センター)
5. 「ラムサール条約締約国会議における CEPA の展開と capacity building について (その2)」
佐々木美貴(日本国際湿地保全連合)
6. 「マレーシア・サバ州における JICA プロジェクトの CEPA 活動について」
依田明実(マレーシア・サバ州天然資源庁)、Alessandra Markos (JICA-SDBEC プロジェクト)
7. 「Sabah Wetlands Conservation Society Commitment on Wetlands Conservation in Sabah, Malaysia」
Guslia Binti Lahasing (Sabah Wetlands Conservation Society)
8. 「Efforts and Awareness on Wetlands Conservation in Sabah by EPD」
Daisy Aloysius (サバ州環境保護局)
9. 「1983年から2015年の間に見られたため池環境の変化：名古屋市東部およびその周辺における事例」
富田啓介(愛知学院大学)、土山ふみ(名古屋学院大学)、飯尾俊介(愛知県森林公園植物園)、大沼淳一(ため池の自然研究会)、近藤繁生(東海学園大学)、高山博好(NPO 法人びすた〜り)
10. 「湧水湿地における Web カメラのアクセス数と開花の関連性」
高田雅之(法政大学)、川島賢治・大畑孝二(日本野鳥の会)、小熊宏之(国立環境研究所)

11. 「コウノトリ生息地保全に向けた湿地再生と環境教育の役割と可能性」

田開寛太郎（東京農工大学大学院）

12. 「河川環境レベルと人々の水辺利用・意識に関する基礎的研究」

林博徳・藤岡昌弘・島谷幸宏（九州大学大学院）

13. 「フューチャーアースにおけるグリーンインフラ研究について」

島谷幸宏（九州大学）

14. 「『出雲神話』における湿地について」

笹川孝一（法政大学）

○ポスター講演

P1. 「戦後 60 年間に於けるラムサール登録湿地と人との関わりの変化」

松井友希（前 東京農業大学）、安藤元一（ヤマザキ学園大学）

P2. 「シギ・チドリ類の生息環境の評価と保全に向けた考察」

田辺篤志（熊本大学大学院自然科学研究科）、皆川朋子（熊本大学大学院先端科学研究部）

P3. 「無線通信 360 度カメラを用いたマガンモニタリング」

山田浩之（北海道大学大学院農学研究院）、九間啓士朗・村田祥子（北海道大学農学部）

P4. 「携帯型多波長蛍光光度計を用いた底生藻類生物量の計測」

矢部徹・有田康一（国立環境研究所）、後田俊直（広島県立総合技術研究所 保健環境センター）、惠本佑（山口県環境保健センター）、小林弘明・岩渕美香（川崎市環境総合研究所）、市川竜也・浦垣直子（横浜市環境科学研究所）、江藤優子（北九州市環境科学研究所）、石井裕一（東京都環境公社）、国分秀樹（三重県水産研究所）、宮崎一（ひょうご環境創造協会）、山口毅（日本海洋株式会社）

P5. 「北海道に生息するミズゴケ属の遺伝子解析と種同定結果の比較（事例報告）」

新庄久尚（エコテック）、佐藤桐子（東海大学）、星良和（東海大学）

P6. 「釧路湿原の植生に対する柵を用いたニホンジカの影響評価」

島村崇志・稲富佳洋（道総研環境科学研究センター）、日野貴文（酪農学園大学）、宇野裕之（道総研環境科学研究センター）、吉田剛司（酪農学園大学）

P7. 「サロベツ湿原周辺におけるエゾシカの生息状況および移動実態の報告」

中村秀次・早稲田宏一（EnVision 環境保全事務所）

P8. 「インドネシア遠隔農村における小水力発電の持続性について」

佐藤辰郎・井手淳一郎・島谷幸宏（九州大学）

P9. 「東南アジアの湿地と大型ダム・外来魚・プランテーション」

鹿野雄一（九州大学）

P10. 「歴史的景観沖代条里における農業用土水路保全事例の紹介」

山下奉海・巖島怜（九州大学）

P11. 「平成 27 年 9 月鬼怒川氾濫を対象とした地形的・歴史的解析を踏まえた大規模水害対策の提言」

巖島怜・島谷幸宏（九州大学）

2. 2016 年度理事会

第一回目の理事会を 2016 年 5 月 14 日（日）に法政大学にて、第二回目の理事会を 2016 年 8 月 26 日（金）に島根大学汽水域研究センターにて開催した。

第一回理事会では、2016 年度大会とジョイントでの開催を検討していた「ラムサールシンポジウム 2016

「中海・宍道湖」に湿地学会が主催として加わることが承認された。ただし、今後学会が主催する手続きについては、昨年整理した「学会の共催・協賛・後援に関する覚書」同様の形で整理することが確認された。来年は、ラムサールシンポジウム 2016 の成果を引き継ぐ形で、アジア湿地シンポジウム（AWS）を佐賀県で開催することが検討されているが、日本湿地学会としては、湿地研究に関わる国際貢献と分野連携を推進するという基本姿勢のもと、AWS にも主催団体に参加することを含め貢献していくことが確認され、会長及び国際担当理事が担当することとなった。また、新井広報・国際担当理事より英語版ウェブサイト案が提示され、英語による論文の投稿方法や大会での発表方法についても今後掲載内容を検討していくことが確認された。

第二回理事会では、翌日の大会および総会に向けての協議を行った他、学会の主催行事の取り扱い、アジア湿地シンポジウム、経理管理事務体制・監査体制の強化、理事選挙スケジュール、編集委員会からの報告提案事項についての協議を行った。学会の主催行事については、主催の名義使用に関する手続きについて話し合わせ、次回理事会までに明文化することとなった。理事選挙については、学会長、副会長、総務担当理事、企画担当理事が年内にも選挙方針を検討し、年度内には選挙管理委員会に委嘱することとなった。編集委員会からの報告提案事項では湿地研究の刊行・投稿規程の改定案について協議し承認された。

3. 2016 年度総会

2016 年 8 月 27 日（土）、島根大学教養 1 号館にて総会が開催され、28 名の参加があった。なお、委任状の総数は 26 通、すべて議長に一任であった。

議事の概要は以下の通りである。議長は芝原達也氏、記録は林博徳事務局次長が行った。

◇議事 1 2015 年度事業及び決算報告

資料に基づき牛山事務局長より 2015 年度事業報告が、佐々木財務担当理事より 2015 年度決算報告があった。林監事より監事を代表して予算執行が適切であったことの報告があり、承認された。

◇議事 2 2016 年度事業計画及び予算案

資料に基づき牛山事務局長より 2016 年度事業案、佐々木財務担当理事より 2016 年度予算案の説明があり、承認された。

◇議案 3 その他

1) 理事会からの報告事項

牛山事務局長より前日に行われた第二回理事会の協議内容について報告があり、島谷会長よりアジア湿地シンポジウムについての告知が行われた。

2) 2017 年度大会について

来年度大会の開催地は東京農工大学とし、日程等について検討されることとなった。

（日本湿地学会事務局）